

乙 第 号

長 徹二 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第号	氏名	長徹二
論文審査担当者	委員長	教授	羽竹勝彦
	委員	教授	今村知明
	委員	教授	岸本年史
	(指導教員)		

### 主論文

Two-Year Prognosis after Residential Treatment for Patients with  
Alcohol Dependence: Three Chief Guidelines for Sobriety (3CGS) in Japan

アルコール依存症で入院加療二年予後調査：日本の伝統的断酒3本柱について

Tetsuji Cho, Hideki Negoro, Yasuhiro Saka, Masayuki Morikawa,

Toshifumi Kishimoto

Neuropsychiatric Disease and Treatment 12巻 1983 - 1991頁

2016年8月発行

## 論文審査の要旨

アルコール依存症は飲酒をコントロールできない慢性疾患であり、急性期治療が重要であることに加え、長期間の維持療法が重要な位置を占めている。伝統的にアルコール依存症の治療において、どの専門病院でも、その治療方針に「断酒 3 本柱」を掲げている。「3 本柱」は受診継続、自助グループ（断酒会など）への参加、抗酒剤の服用である。しかし「断酒 3 本柱」は有名な治療方針ではあるものの、根拠となる医学的記録はない。「3 本柱」を守れると予後は良いという臨床実感はあるが、「3 本柱」を守るのは難易度が高すぎて治療意欲を引き出しにくいという側面があった。

本研究は「断酒 3 本柱」を遵守することにより、2 年予後はよいかどうか、またそれぞれ 1 本柱でも同様に予後がよいかどうかを評価することを目的としている。対象はアルコール依存症として診断され、三重県こころの医療センターに入院した患者全員であり、研究参加同意者が 100 人に達するまで継続してエントリーし、前方視的に調査した。退院 2 年後の「断酒 3 本柱」に関する受診継続、自助グループへの参加、抗酒剤の服用と 2 年後断酒率との関連性について調べた。結果は「断酒 3 本柱」を遵守できた者は 2 年間の断酒率は有意に高かった。また受診継続、自助グループ参加のみでも有意に断酒率は高く、調整後オッズ比はそれぞれ 5.33 と 3.79 であった。

本研究から伝統的な治療方針である「断酒 3 本柱」を遵守することで、少なくとも退院 2 年後の断酒率が高くなること、また 1 つの柱を遵守することや柱を組みあわせることでも、退院 2 年後の断酒率が改善できることを日本で初めて明らかにし、精神医学分野において有意義な研究と評価される。

## 参 考 論 文

1. Efficacy of disulfiram for the treatment of alcohol dependence assessed with a multicenter randomized controlled trial.

Atsushi Yoshimura, Mitsuru Kimura, Hidekazu Nakayama, Toshifumi Matsui, Fukiko Okudaira, Shigeru Akazawa, Masao Ohkawara, Tetsuji Cho, Yoshihiro Kono, Koji Hashimoto, Masayuki Kumagai, Yukiko Sahashi, Sungwon Roh, Susumu Higuchi  
Alcohol Clin Exp Res. 38(2):572-578, 2014.

2. Sex differences in risk factors for suicidality among Japanese substance use disorder patients: association with age, types of abused substances, and depression.

Toshihiko Matsumoto, Sachio Matsushita, Kenichi Okudaira, Nobuya Naruse, Tetsuji Cho, Takeo Muto, Takeshi Ashizawa, Kyohei Konuma, Nobuaki Morita, Aro Ino  
Psychiatry Clin Neurosci. 66(5):390-396, 2012.

3. アルコール使用障害と飲酒運転

長 徹二

日本アルコール・薬物医学会雑誌第 46 (1) : 157-169, 2011.

4. アルコール依存症での内科連携の成果

長 徹二, 根来秀樹, 猪野亜朗, 井川大輔, 坂保寛, 原田雅典,  
岸本年史

精神医学 52 (11) : 1115-1120, 2010.

5. An Adolescent Case of Ellis-van Creveld Syndrome with Obsession,  
Compulsion, and Ideations of being Watched

Tetsuji Cho, Hideki Negoro, Michihiro Toritsuka,  
Toshifumi Kishimoto

Jpn. J. Child Adolesc. Psychiatr 50 (Suppl) ;38-46, 2009.

6. 三重県におけるアルコール依存症の連携医療

長 徹二, 鳥塚通弘, 猪野亜朗, 林竜也, 渡辺省三, 高瀬幸次郎,  
広藤秀雄, 遠藤太久郎, 宮本敏雄, 坂保寛, 森川将行, 原田雅典,  
岸本年史

精神医学 49 (8) : 847-853, 2007.

7. 飲酒運転実態調査

長 徹二, 林竜也, 猪野亜朗, 原田雅典, 平野建二, 清水新二,  
長内清行, 鳥塚通弘, 根來秀樹, 岸本年史,

精神医学 48 (8) : 859-867, 2006.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 28 年 11 月 8 日

学位審査委員長

法医科学

教授 羽竹勝彦

学位審査委員

公衆衛生学

教授 今村知明

学位審査委員（指導教員）

精神医学行動神経科学

教授 岸本年史